Colaboración del Pueblo Japonés

# 令和4年度対エルサルバドル共和国
# 草の根・人間の安全保障無償資金協力
# 「サン・ディエゴ村診療所建設計画」引渡し式の開催

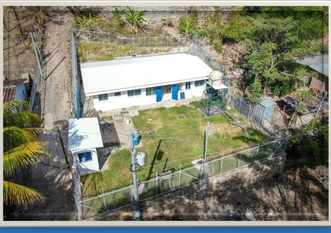
KU・SA・NO・NE

2025年4月29日、星野芳隆駐エルサルバドル日本大使は、フリオ・アギラール保健省東部地域局長とともに、保健省が承認した設計ガイドラインに基づき、人間の安全保障無償資金協力（APCS）の下で実施された、北サンミゲル市ビジャ・サン・アントニオ区にて行われた「サン・ディエゴ村診療所建設計画」の竣工式に出席をした。

イベントには、北サンミゲル市、カンポ財団、サンディエゴ村村落開発協会などの組織の代表が出席した。

このプロジェクトは、ホンジュラスとエルサルバドルの国境とトロラ川に囲まれた地域にて実施され、被益対象は7つの地区におよび、その住民は治療のために遠距離の移動を余儀なくされていたものが、より速やかに治療を受けるようになり、年間3,500人の患者がその恩恵を直接享受することになる。

❖エルサルバドルの国樹であるマキリシュアをエルサルバドルと日本の友好と協力の証として植樹した。



❖新しくなったサンディエゴ村診療所俯瞰

本プロジェクトには総額$306,388米ドルが提供され、その内訳は以下の通り：

在エルサルバドル日本国大使館は、236,629米ドルを提供し、サンディエゴ村診療所の建設および建築仕上げ、ならびに施工監督および外部監査の費用に活用された。

北サンミゲル市からは46,858.20米ドルが提供され、基礎工事（テラスの切り土と盛り土）、電気設備およびその接続に使用された。

カンポ財団は14,900.80米ドルを提供し、プロジェクト全体の策定、診療所内設備の抗菌カーテンの供給と設置、扇風機、空調、看板、消火器、計画看板、記念碑などに使用された。

サンディエゴ村村落開発協会は、プロジェクト全体のために8,000米ドルの非熟練労働力と設備や機材の警備を提供した。

さらに、保健省は、サンディエゴ村の診療所の運営に必要かつ十分な人材と設備を提供した。

駐エルサルバドル日本国大使
星野芳隆

日本国は「誰一人取り残さない」をモットーに開発協力を行っている。日本国大使館はこれに基づき、当国政府とともに、道路、空港、教育、防災といった分野で様々な国際協力を実施しており、2024年12月には、ブケレ大統領の出席のもとサンミゲルバイパスの竣工式を行った。一方、コミュニティの基本的ニーズを満たすための援助も行っており、1990年から現在まで当国ほぼ全ての市において、安全な水の供給、学校施設の向上、救急車の配備、診療所の建設といった450件以上の草の根案件を実施してきている。

しかし、最も重要なことは、日本からの支援ではなく、地域コミュニティの自助努力であり地方行政の熱意である。当国において遠隔地における医療体制の充実は大きな挑戦といえ、問題は医師の確保だろう。我々としてはコミュニティへの援助を継続していきたい。本年、日エルサルバドル外交90周年を迎えるなかでサンディエゴ村診療所の竣工式を行えたことは大きな喜びである。日本大使館は引き続き協力を行っていく。

フリオ・アギラール
保健省東部地域局長

本日、アラビ保健相の命を受けサン・ディエゴ村診療所竣工式に出席した。ブケレ大統領の指示のもと進捗しているトロラ川への2か所での架橋により、モラサン県を経由せずサン・ミゲル中央市やシウダ・バリオス区へ直接向かうことが可能となるが、この診療所が竣工したおかげで長い道のりを経ずサン・ディエゴ村で診療を受けられることになる。

これを補強するためにも保健省として、医師をはじめとした医療従事者の常駐、最新医療器具の設置、ワクチンをはじめとした各種医薬品の常備に努めていきたい。

サントス・ダニエル・ベントゥーラ
サンディエゴ村村落開発協会
監事

10地区から構成されるサンディエゴ村において、この度診療所を竣工する運びとなった。診療所を建設する計画は今を遡ること30年以上前からあり、マリア・アンヘラ・アルゲータ氏夫妻の寄贈により建設予定地こそ確保されたが、建物を建設するための資金がなく市役所に何度も申請したことを覚えている。

結果として、在エルサルバドル日本国大使館、北サン・ミゲル市役所、カンポ財団の資金援助とコミュニティーの労働力でこのように素晴らしい診療所が完成した。心からお礼申し上げる。

Embajada del Japón
El Salvador

このプロジェクトは、エルサルバドルの地域社会、特に最も脆弱な領域の発展に貢献するもので、コミュニティや地元組織との直接的な資金協力を通じて、草の根人間の安全保障無償資金協力の枠組みの中、公共財であるインフラに関わるプロジェクトに支援されたものである。